

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-60	高等学校	国語科	論理国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論国 704	新 論理国語		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって主体的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、選択科目としての性格や特色を意識するとともに、共通必履修科目において育成された能力を基盤として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の関連する内容を発展させ、育成を目指す資質・能力を確かめながら、主体的に、対話をとおして、深く学ぶことができるよう、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能力

が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もともと基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという行為は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、表現のための学習と理解のための学習とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。そのため、この教科書では、表現と理解を結びつけた独自の課題（＝学習の場）を設定することで、生徒たちの主体的な学習活動を促し、言語能力を総合的に高められるよう配慮しました。また、内向的な学びに向かいがちな学習のあり方に対する反省をふまえ、自分の意見や考えの積極的な発信や他者との協働的な活動をとおして、開かれた個性、広範な教養が育まれることを目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいるどる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題の設定についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
言葉は平等な内面を作り出す	言葉や論理とは何かを考えると、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	14～16
若者に友達プレッシャー	若者の居場所について考えを深めることをと、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	18～22
自分を捉え直す	自我について論じた文章をと、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	24～31
他者を理解する	他者を理解することについて論じた文章をと、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	33～40
情報を整理する	情報を整理することをと、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	42～45
一人で爆笑	日本語について論じた文章をと、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	56～62
カタカナ語は享受すべきか	外来語への考え方を論じた文章をと、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	64～70
世界のあり方	世界の認識への姿勢を論じた文章をと、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	72～75
文章をリフォームする	文章の推敲をと、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	77～79
それぞれのしっくりくる言葉	言葉の使い方に対する考え方を論じた文章をと、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	90～93
多様な視点から考える	多様な考え方の必要性を論じた文章をと、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	95～100
女性／男性だから〇〇	性差への考え方を論じた文章をと、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	102～108
意見を書く	意見を書くことをと、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	110～114
落語の中の経済学	伝統芸能と経済を論じた文章をと、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	124～131
ホンモノのおカネの作り方	貨幣の真贋について論じた文章をと、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	133～140
「展示」が伝えるもの	資料館の展示について論じた文章をと、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	142～151
レポートを書く	レポートを書くことをと、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	153～158
情報の内容を吟味する	若者の労働観に関する資料をと、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	168～169
なぜ私たちは労働するのか	労働に対する姿勢を論じた文章をと、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	171～176
「すべり台社会」と「溜め、	日本社会の現状と福祉のあり方を論じた文章をと、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	178～185

投書を書く	投書を書くことをとおして、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	187～191
地球上の「旅人」	幅広い見方や考え方の薦めを論じた文章をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	200～206
誰かの靴を履いてみる	英国の教育内容を論じた文章をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	208～214
スポーツとナショナリズム	スポーツとナショナリズムの関係を論じた文章をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	216～224
レビューを書く	レビューを書くことをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	226～228
人類による環境への影響	対照的な二つの対環境戦略を論じた文章をとおして、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第四号)。	238～247
この十年をどう生きるか	地球温暖化へ対策を論じた文章をとおして、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第四号)。	249～256
プラスチックごみについて考える	海洋汚染の現実を伝えるデータを読み比べることをとおして、生命を尊び守っていく態度を養うことを目指した(第四号)。	258～259
説得力のある文章を書く	説得力のある文章を書くことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した(第二号)。	261～265
〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀	発明とその意義や影響を論じた文章をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	280～285
言語ゲームと哲学的感度	漫画に込められた哲学性を論じた文章をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	287～290
日本マンガのブルーオーシャン戦略	漫画雑誌の発展とその理由を論じた文章をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	292～299
報告文を書く	報告文を書くことをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	301～305
学びとは何か	学習と創造性との関係を論じた文章をとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	316～323
「知る」ということ	「知る」というのはどういうことかを論じた文章をとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	325～332
文系と理系の壁はあるか	文・理の弁別について論じた文章をとおして、文化や環境について多角的に考え、幅広い知識と教養を身に付けることを目指した(第一号)。	334～338
自己推薦文を書く	自己推薦文を書くことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した(第二号)。	340～344
科学には限界があるか	科学の未来について論じた文章をとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	356～360
未来のありか	未来とは何かについて改めて論じた文章をとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した(第一号)。	362～368
リスク社会論	現代社会の課題を論じた文章をとおして、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	370～378
卒業論文を書く	卒業論文を書くことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した(第二号)。	380～385
ブックガイド	「幅広い知識と教養」「真理の探求」「豊かな情操と道徳心」「勤労の精神」「生命や自然」「伝統と文化」「国際社会の平和」などを尊重し涵養するための読書活動を推進することを意図して、各単元9冊の図書をテーマ別に紹介した(第一号、第二号、第三号、第四号、第五号)。	38,58,84,106, 126,150,174, 202

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。
- ❖ 資料編の「思考の方法」などでは、文字による解説に加え、わかりやすい図解を用いることで内容を視覚的に捉えられるよう工夫しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-60	高等学校	国語科	論理国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15三省堂	論国 704	新 論理国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

実社会で必要な、情報を整理する能力と批判的に読む資質・能力を育む

① 育成したい資質・能力を焦点化するとともに、求められる言語パフォーマンスを明示する

- 子どもたちが、近い将来直面する未来社会の課題や問題の状況を多面的に捉えられるよう、テーマに基づいて単元を構成しました。また、設定した話題に対して、子どもたちが自ら問いを立て、多様な論点、異なる価値観と結び付けながら、他者と協働し、新たな観点から自分たちの考えを深められるように教材を配置し、学習活動を構成しています。
- 単元の冒頭と単元を構成する教材や学習活動の冒頭には「つけたい力」として学習目標を提示し、教材の末尾には学習を振り返る機会を設けることで、学習活動をとおして身についた力を自分で診断・評価し、次の学習にいかすことができる仕組みを目指しました。また、学び手が「つけたい力」を意識できるような具体的な言語活動を設定し、知識と知識を関連づけ、既有知識を活用できる学習活動を設定しています。
- 学習指導要領に記載された指導事項をふまえ、「読む」ことの学習を「関係認識力の向上」を観点として捉え直して学習の系統化を図り、「情報の整理」を「基礎・基本」として段階的かつ体系的に、確実に習得できるようにしました。また、「情報の扱い方に関する事項」を単元の学習過程に組み込みんでいます。
- 学習指導要領で示された「実社会において必要となる、論理的に書いたり、批判的に読んだりする資質・能力」を育むための基盤となる学習活動を、教科書紙面上に構成しました。学習活動をとおして、「示された情報の信頼性や妥当性を見極める能力」、「他者の主張や考えを的確に理解する能力」「自らの主張や考えを、相手に受け入れられるよう、論拠に基づいて効果的に構築する能力」、さらにこうした能力を統合して「立場や考えの異なる他者との的確な意思疎通や共通理解、課題を発見しその解決を導いていくための創造性や合理性を重視した他者との協働する能力」の育成に寄与するよう単元を構成しています。

見直し

ステップ1 目標の確認

…目標を確かめて、学習の見直しをもちます。

主体的・対話的で深い学び

ステップ2 教材を用いた学習活動

〈読む〉テキストを情報として総合的に理解する。
 〈書く〉情報を整理・分析・吟味することで考えを形成する。

…学習課題を整理・確認して、「情報の扱い方」の学習内容や学習の構成をつかみます。自学自習にも対応した課題を設定しています。
 …文章や資料を詳しく読み、対話をとおして情報の内容や構成表現の仕方についての理解を深めます。
 …文章や資料を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深めたり、広げたりします。さまざまな表現活動を軸にして情報の発信者として、自覚的に自己の考えを表出します。

振り返り

ステップ3 学びを振り返る

…自分の学習を振り返って評価し、これからの学習へいかします。

+α

探究の視点・学びを深める

…ステップ1～3までの学習を活用して取り組むとともに、新たな資料を参照するなどして、学びをさらに広げたり、深めたりします。



②批判的に検討するための方法の拡充と深化を目指す

- ・コラム「読解するために」では、「示された情報の信頼性や妥当性を見極める」ための、また「他者の主張や考えを的確に理解する」ための「読みの方略」を図解で示しました。他教材や自主的な読書、表現活動などで繰り返し活用できる10の方略を、単元ごとに「読み方のコツ」として配置しています。
- ・言葉による見方・考え方をはたらかせて、情報と情報との関係を捉えたり考えを整理したり深めたりする方法として、資料編に「思考の方法」を示しています。
- ・学習活動に応じて、「思考の方法」を活用するための手引きを「情報を整理するために」として配置し、単元や教材の学習活動の文脈の中で適切に活用できるようにしています。
- ・資料編には「『思考の方法』一覧」のほか、厳選した「話し合いの方法」を、図を用いてわかりやすく示しています。

根拠や論拠の吟味を重ね、文章全体の論理の明晰さを確かめて論理的に書く能力を育む

③自分の考えを形成する、自分の考えを広げ、深める

- ・全ての教材で「自分の考えを形成する学習過程」を重視しました。また、〈読む〉学習を通じて深めた認識をもとに、自分の考えをより豊かに深めていくことを目指し、〈書く〉学習を単元末の学習活動として配置しています。
- ・単元末の〈書く〉学習は、〈読む〉学習との関連をもたせました。また、実際の高校生が書いたものを教材として配置することで、単なる意見や考えを書くだけでなく、より深い認識に改めたり、説得的なものにしたりしていく学習活動を配置し、対話とおして考えを深めたり問題解決したりする機会と場を充実させています。
- ・特に、第9・10単元の〈書く〉学習は、〈読む〉学習の延長ではなく、高校生にとってリアリティのある課題として、「志望理由書」や「卒業論文」を作成することを課題として設定しました。学習の成果を活用して〈書く〉過程をおとして、「論理的説明力を基盤にした論述力」が身についたことを実感することができるようになっています。



④他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能を習得する。

- ・各教材には、理解できる語句と使える語句の量を増やすために、日常生活でよく使われる語を中心として、漢字の音訓の使い分けや、形や読みが似ていることで混同しやすい熟語を中心に示しています。
- ・各単元には、現代社会を考える際に必要なさまざまなテーマをの認識を深めるためのコラムを準備しました。また、テーマに関連した語彙を取りあげ、語感を磨き、情報内容のより深い理解を目指すことができるよう構成しています。
- ・全単元を通じて「伝え合い」「合意形成」「説得」などを学習活動の要所に配置し、現代の社会生活で必要となる言語能力の活用を目指した取り組みと他者との協働を目指した学習を設定し、言語生活者として育つことを目指しています。

学びを深める

⑤「振り返り」の充実

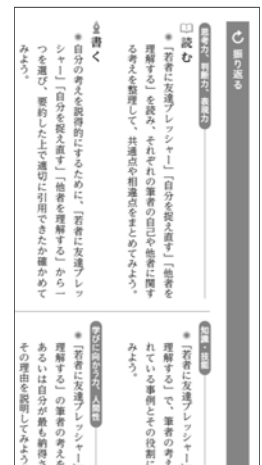
—子どもたち自身が自らの学びを捉え直し、次の学習につなげることを目指して

- ・「振り返り」のページを構成し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の観点別ごとに、子どもたち自身が自らの学びを評価し“何ができたか”“次の学びに向かうためすべきことは何か”など、自らの学びを捉え直せる機会を提供しています。

⑥言葉と文化の担い手として

—豊かな読書、伝統的な言語文化の継承・発展を目指して

- ・単元末尾の「ブックガイド」は「表現」「教材」「単元のテーマに関わる本」に分類し、多様なジャンルの読書に誘うだけでなく、学習の際の手立てとなる書籍を掲載しました。
- ・各単元の末尾に「探究の視点」を置き、単元で学んだことを広げて考えていくためのテーマを配置しました。このような単元構成とすることで、教材の読解にとどまるのではなく、単元のゴールを「社会事象の総合的理解と、それに基づく自分の考えの論述」とし、「社会に開かれた教育課程」の実現を図っています。
- ・補充教材として使える「学びを深める」の教材群を掲載し、さまざまな文章に触れる機会を提供しています。



2.対照表

		図書の構成・内容 [教材名]	学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配 当 時 数		
I 部	入門	言葉とは何かを考える	「言葉は平等な内面を作り出す」 橋爪大三郎	●読カ 考えの形成 ◆言葉ア 言葉の働き	14~16	適 宜	
	1 論 点 を 整 理 す る た め に	論点を明確にする	「若者に友達プレッシャー」 辻大介	●読ア 構造と内容の把握 カ・ キ 考えの形成 [言語活動] イ・ウ ◆言葉イ 語彙 ウ 文や文章 ◆情報ア 情報と情報との関係	18~22	7	
		コラム	要約・要旨		23		
		要旨を把握する	「自分を捉え直す」 平野啓一郎		24~31		
		コラム	言葉そのものを認識する		32		
		内容や構成・論理の展開を捉える	「他者を理解する」 鷺田清一		33~40		
		コラム	私とは、他者とは		41		
		情報を整理し活用する	情報を整理する		●書ア 題材の設定 [言語活動] ア		42~45
	探究の視点	他者	◆言葉イ 語彙	47	適 宜		
	学びを深める	「身体(の)疎外」 黒崎政男	◎学んだことを深め、読書に 親しむ態度の育成を図る。	48~53			
	2 正 し く 推 論 す る た め に	主張を支える根拠を捉える	「一人で爆笑」 飯間浩明	●読イ 構造と内容の把握 ウ 精査・解釈 カ・キ 考えの形 成 [言語活動] イ ◆言葉ア 言葉の働き イ 語彙 ウ 文や文章 ◆情報イ 情報の整理	56~62	7	
		コラム	論理的な文章を読み解く		63		
		データを整理し書き手の意図を捉える	「カタカナ語は享受すべきか」 川口良・角田史幸		64~70		
		コラム	語彙を豊かにして表現力を磨く		71		
		結論を導くための論拠を捉える	「世界のあり方」 野矢茂樹		72~75		
		コラム	言葉・言語		76		
		的確に伝える	文章をリフォームする		●書オ 考えの形成、記述 [言語活動] ウ		77~79
	探究の視点	言葉・言語	◆言葉イ 語彙	81	適 宜		
	学びを深める	「言語は色眼鏡である」 野元菊雄	◎学んだことを深め、読書に 親しむ態度の育成を図る。	82~87			
3 情 報 を い か す た め に	主張を支える	「それぞれのしっくりくる言葉」 山崎ナオコーラ	●読イ 構造と内容の把握 ウ 精査・解釈 カ・キ 考えの形 成 [言語活動] ア・ウ ◆言葉ウ・エ 文や文章 ◆情報ウ 情報の整理	90~93	7		
	コラム	論理の組み立て		94			
	事例を吟味する事例の役割と意味を捉える	「多様な視点から考える」 前田健太郎		95~100			
	コラム	さまざまな文章1 広告		101			
	書き手の思考過程を検証する	「女性／男性だから○○」 瀬地山角		102~108			
	コラム	人権・ジェンダー		109			
	根拠を明確にして考えを述べる	意見を書く		●書イ 情報の収集内容の検討 [言語活動] イ		110~114	4
	探究の視点	ジェンダー		◆言葉イ 語彙		116	適 宜
学びを深める	「そして若者論は続く」古市憲寿	◎学んだことを深め、読書に 親しむ態度の育成を図る。	117~121				

4 構成を吟味し説得力を高めるために	文章や論理の構成を捉える	「落語の中の経済学」 大竹文雄		124～131	7	
	コラム	推論の仕方	●読オ 精査・解釈 カ・キ 考えの形成、共有 [言語活動] イ・ウ・エ ◆言葉ア 言葉の働き イ 語彙 エ 文や文章 ◆情報ウ 情報の整理	132		
	書き手の意図を捉える	「ホンモノのおカネの作り方」 岩井克人		133～140		
	コラム	例示・事例		141		
	送り手の意図を捉え解釈を深める	「『展示』が伝えるもの」 小田原のどか		142～151		
	コラム	経済		152		
	論拠を吟味し伝えたいことを明確にする	レポートを書く		●書エ 考えの形成、記述 [言語活動] ウ		153～158
	探究の視点	経済		◆言葉イ 語彙	160	適宜
	学びを深める	「インターネット的価値観」 糸井重里	◎学んだことを深め、読書に親しむ態度の育成を図る。	161～165		
	情報を分析する	情報の内容を吟味する		168～169		
5 信頼性を吟味するために	コラム	労働と若者	●読ウ・エ・オ 精査・解釈 カ・キ 考えの形成 [言語活動] ア・イ・ウ ◆言葉ア 言葉の働き イ 語彙 エ 文や文章 ◆情報イ 情報の整理	170	7	
	根拠や例示の適切さを確かめる	「なぜ私たちは労働するのか」 内田樹		171～176		
	コラム	さまざまな文章2 報告書		177		
	論理の構成を理解する	「『すべり台社会』と“溜め、”」 湯浅誠		178～185		
	コラム	図表と文章		186		
	立場や論点を明確にする	投書を書く		●書イ 情報の収集、内容の検討 [言語活動] イ	187～191	5
	探究の視点	働くということ		◆言葉イ 語彙	193	適宜
学びを深める	「コンクリートの時代」 隈研吾	◎学んだことを深め、読書に親しむ態度の育成を図る。	194～197			
6 隠れた前提を探すために	表現の仕方と書き手の意図との関係を捉える	「地球上の『旅人』」 ヤマザキマリ	●読イ 構造と内容の把握 エ 精査・解釈 カ・キ 考えの形成 [言語活動] ア・イ・ウ ◆言葉ア 言葉の働き イ 語彙 エ 文や文章 ◆情報ウ 情報の整理	200～206	7	
	コラム	状況・背景		207		
	さまざまな視点から評価する	「誰かの靴を履いてみること」 ブレイディみかこ		208～214		
	コラム	さまざまな文章3 企画書		215		
	論拠を批判的に検討する	「スポーツとナショナリズム」 阿部潔		216～224		
	コラム	グローバル化		225		
	立場の異なる読み手を説得する	レビューを書く		●書ウ 構成の検討 [言語活動] イ	226～228	5
探究の視点	グローバル化	◆言葉イ 語彙	230	適宜		
学びを深める	「『文化が違う』とは何を意味するのか？」岡真理	◎学んだことを深め、読書に親しむ態度の育成を図る。	231～235			
7 具体と抽象の関係を理解するために	文章の信頼性と妥当性を吟味し内容を解釈する	「人類による環境への影響」 鷺谷いづみ	●読イ 構造と内容の把握 エ 精査・解釈 カ・キ 考えの形成 [言語活動] ア・ウ ◆言葉ア 言葉の働き イ 語彙 エ 文や文章 ◆情報ア 情報と情報との関係	238～247	11	
	コラム	具体と抽象		248		
	多様な論点を結びつける	「この十年をどう生きるか」 堅達京子		249～256		
	コラム	内容の整理		257		
	必要な情報を関係づける	プラスチックごみについて考える		258～259		
	コラム	環境・科学技術		260		
	考えを相対化する	説得力のある文章を書く		●書カ 推敲、共有 [言語活動] エ	261～265	6
	探究の視点	環境		◆言葉イ 語彙	267	適宜
	学びを深める	「『である』ことと『する』こと」 丸山真男		◎学んだことを深め、読書に親しむ態度の育成を図る。	268～277	

8 批評するために	批評する	「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 宇野常寛		280～285	11
	コラム	批判的に読む		286	
	批判的に検討する	「言語ゲームと哲学的感度」 永井均	●読エ・オ 精査・解釈 カ・キ 考えの形成 [言語活動] イ・ウ・オ	287～290	
	コラム	文化・芸術	◆言葉イ 語彙 ウ・エ 文や文章	291	
	書き手の立場や目的を考える	「日本マンガのブルーオーシャン 戦略」 中山淳雄	◆情報イ 情報の整理	292～299	
	コラム	情報の効果的な示し方		300	
	論理の明晰さを確かめる	報告文を書く	●書イ 情報の収集、内容の検討 エ・オ 考えの形成、記述 [言語活動] イ	301～305	6
探究の視点	文化・芸術	◆言葉イ 語彙	307	適宜	
学びを深める	「ミロのヴィーナス」 清岡卓行	◎学んだことを深め、読書に 親しむ態度の育成を図る。	308～313		
9 情報を関連づけ自分の解釈を形成するために	必要な情報を関係づける	「学びとは何か」 今井むつみ		316～323	11
	コラム	比較	●読オ 精査・解釈 カ・キ 考 えの形成 [言語活動] ウ・オ	324	
	考えを広げたり深めたりする	「『知る』ということ」 加藤周一	◆言葉ア 言葉の働き イ 語 彙 ウ・エ 文や文章	325～332	
	コラム	反論の想定	◆情報イ 情報の整理	333	
	内容の解釈を深める	「文系と理系の壁はあるか」 最相葉月		334～338	
	コラム	知のあり方		339	
	主張が的確に伝わるか吟味し修正 する	自己推薦文を書く	●書カ 推敲、共有 [言語活動] エ	340～344	6
探究の視点	知のあり方	◆言葉イ 語彙	346	適宜	
学びを深める	「多様な知識の組み合わせを」 村上陽一郎	◎学んだことを深め、読書に 親しむ態度の育成を図る。	347～353		
10 解釈を広げたり深めたりするために	考えを広げたり深めたりする	「科学には限界があるか」 湯川秀樹		356～360	11
	コラム	データや仮説の検討	●読オ 精査・解釈 カ・キ 考 えの形成 [言語活動] ウ・オ	361	
	自分の考えを捉え直す	「未来のありか」 若林幹夫	◆言葉ア 言葉の働き イ 語 彙 ウ・エ 文や文章	362～368	
	コラム	接続の仕方	◆情報イ 情報の整理	369	
	新たな観点から自分の考えを深める	「リスク社会論」 大澤真幸		370～378	
	コラム	社会のあり方		379	
	学習をいかして書く	卒業論文を書く	●書エ 考えの形成、記述 [言語活動] エ	380～385	6
探究の視点	認識と実践	◆言葉イ 語彙	387	適宜	
振り返る		◎単元での学習を振り返り、 身についたことや深めたい ことを確かめる	46,80,115,159, 192,229,266, 306,345,386	適宜	
ブックガイド	表現・教材・単元のテーマに かかわる本	◆言語文化ア 読書	54,88,122,166, 198,236,278, 314,354,388	適宜	
資料編	「話し合いの方法」一覧		◎国語科の学習を効果的に進 める上で役立つ知識を整理 して示し、国語への認識を 深めたり、尊重する態度の 育成を図ったりする。	390～391	適宜
	「思考の方法」一覧			392～395	
	「思考ツール」一覧			396～399	